

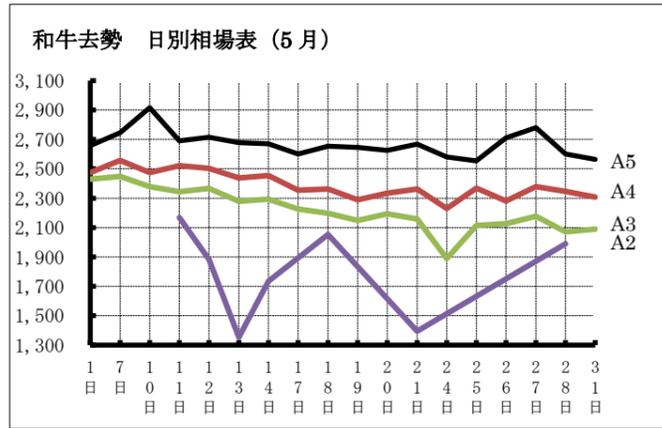
月刊 しばうら

2021年6月号

牛肉営業部

＜5月の相場動向＞

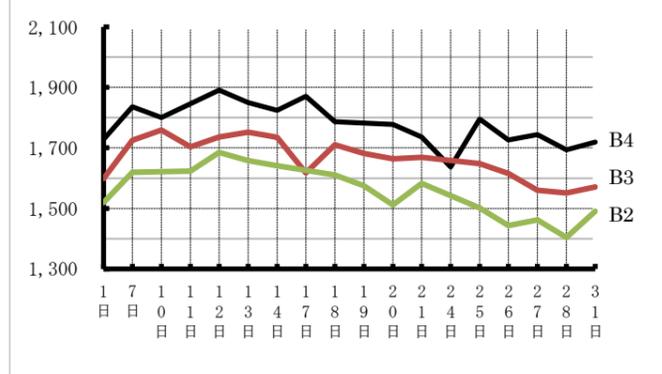
例年ゴールデンウィーク後の相場は、消費疲労の影響により徐々に下がっていく傾向にある。今年については輸出が好調に推移していることと、国の補助事業が機能していることにより、ある程度維持されるとみていたが、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、4月25日から東京・大阪・兵庫・京都で発出されていた緊急事態宣言が、5月に10都道府県に拡大、埼玉・千葉・神奈川をはじめとしたまん延防止等重点措置についても8県での実施となり、結果としては例年通り下げ相場の展開となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,683円	+447円 120.0%	-148円 94.8%
A4	2,409円	+574円 131.3%	-236円 91.1%
A3	2,220円	+602円 137.2%	-285円 88.6%
A2	1,806円	+343円 123.4%	-417円 81.2%

交雑去勢 日別相場表 (5月)



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,803円	+372円 126.0%	-6円 99.7%
B3	1,681円	+398円 131.0%	-33円 98.1%
B2	1,547円	+410円 136.1%	-44円 97.2%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,085円	+131円 113.7%	+130円 113.6%

＜6月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、4月の輸入量は前年同月比19.9%減の5万5,330tで、うちチルドは9.6%減の2万5,585tと大きく下回った。現地のコスト高や供給不足が要因ではあるが、フローズンについては4月中頃まで発動していた米国産のSGによる影響もあるとみられる。農畜産業振興機構によると5月の牛肉輸入数量は、前年比5.9%減の4万7,100tで引き続きの減少と予測している。内訳としてチルドが5%増の2万1,600tとみているが、前年の北米現地工場の稼働停止による反動によるものとみられる。またフローズンは13.4%減の2万5,500tで引き続き入船遅れの影響や豪州および米国の現地価格の高騰により前年同月を下回る予測をしている。

輸入牛肉通関量	4月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,050	11,808 85.1%
	米国	13,174	14,179 92.9%
	その他	2,361	2,315 102.0%
	合計	25,585	28,302 90.4%
フローズン	豪州	14,699	15,746 93.4%
	米国	8,299	18,344 45.2%
	その他	6,747	6,697 100.7%
合計	29,745	40,787 72.9%	

単位：t 出典：食肉速報

＜6月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による6月の出荷予測頭数は、全体で前年比96.9%の8万3,900頭で、品種別にみると和牛は3.9%減の3万8,200頭、交雑種は3.8%減の1万7,800頭、乳用種は1.4%減の2万6,400頭と予測している。東京食肉市場の6月のと畜頭数は7,350頭を予定しています。

＜6月の牛枝肉相場見通し＞

現在発出されている緊急事態宣言やまん延防止等重点措置では、酒類の提供の自粛が求められていることから、外食需要は大きく落ち込んでいる。実施期間も6月20日までと長期化していることや、好調であった輸出も昨年まで新型コロナウイルスの封じ込めに成功していたアジア諸国での感染拡大により、やや勢いを失っており和牛相場は弱含みの展開が予想される。量販店で引き合いの強い交雑種や乳牛去勢は、米国産や豪州産の価格が高騰していることから価格は維持するものと考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500~2,600	B4	1,750~1,800
A4	2,350~2,450	B3	1,550~1,650
A3	2,200~2,300	B2	1,450~1,550
A2	2,050~2,150		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

豚肉営業部

4月の全国と畜頭数は、前年同月比並みの144万9,029頭。また、4月の豚肉通関数量は9万8,740t（前年同月比2.9%減）と前年同月を下回った。一方、前月比では43.1%の大幅な増加となった。内訳はチルドが4万603t（7.8%増）と増加した一方、フローズンは5万8,137t（9.1%減）と減少した。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
比	100%	97%	111%	79%	96%	114%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

4月豚肉通関実績						単位：t		
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比			
アメリカ	20,781	110.6%	デンマーク	13,007	108.2%			
カナダ	18,566	103.4%	スペイン	12,001	95.2%			
メキシコ	1,255	136.7%	メキシコ	10,913	114.0%			
			アメリカ	6,953	80.2%			
			カナダ	3,095	74.1%			
合計	40,603	107.8%		58,137	90.9%			

＜5月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	-	504	468	783
7日	69,700	511	483	1,181
8日	-	524	508	867
11日	69,000	515	488	990
12日	67,700	522	487	768
13日	68,500	513	465	801
14日	68,100	511	456	1,039
平均	68,600/日			918/日

緊急事態宣言が発令されている中でのゴールデンウィークとなったが、昨年のような需要の盛り上がりはなく、一部では荷余り感もあったようだ。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
17日	66,600	472	454	737
18日	67,200	481	460	854
19日	62,800	486	459	761
20日	67,300	507	469	731
21日	65,500	486	462	918
24日	65,600	499	470	706
平均	65,833/日			784/日

全国と畜頭数は6万頭台で推移したが、気温が徐々に上昇し出荷頭数は減少傾向となってきた。通関遅れや飼料価格高騰などによる現地相場の上昇などにより、輸入からの代替需要もあったが相場は軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
25日	64,900	497	474	941
26日	64,700	501	486	715
27日	64,000	516	492	662
28日	63,900	522	508	865
31日	63,400	555	543	694
平均	64,180/日			775/日

東京都では3回目の緊急事態宣言が再延長された。全国と畜頭数は6万5,000頭を割り込む日が続き、相場は強含みの展開となった。

＜6月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による6月の肉豚出荷予測では127万6,000頭（前年比96%）の出荷と予測している。当市場の6月集荷予定頭数は1万5,500頭、1日あたりでは約705頭を見込んでいる。農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万700t（同88.9%）、内訳は冷蔵輸入量が3万1,100t（同97.2%）、冷凍輸入量は3万9,600t（同83.4%）と予測。

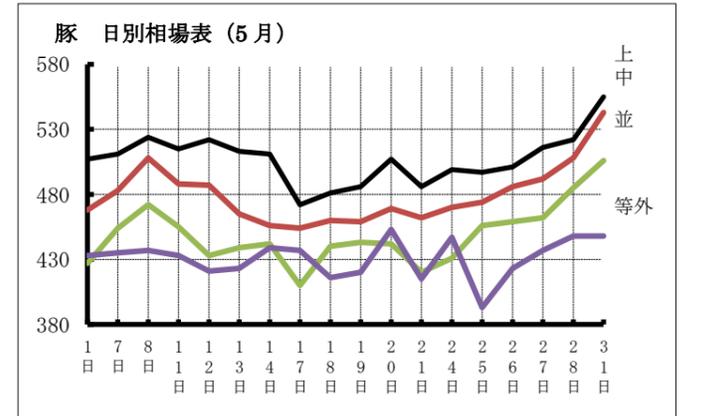
冷蔵品輸入量は飼料価格の高騰やアジア諸国を中心とした買い付けによる現地高等の影響により、前年同月をわずかに下回ると予測する。なお3ヵ月平均も前年同期と同水準となると予測する。

冷凍品輸入量も冷蔵品と同様の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の減少等から、大幅に前年同月を下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も前年同期を大幅に下回ると予測する。

6月は輸入品が通関遅れによって、不安定な入荷状況が継続することで国産ヘシフトされることが予想される。また、緊急事態宣言が再延長されたことにより、外食需要が極端に減少していることから、引き続き内食需要は底堅く推移するとみられる。

東京の上場頭数は昨年夏の猛暑の影響による受胎率の低下や気温上昇に伴う増体の遅れにより、今後は更に減少傾向となることが予想される。上場頭数次第では一時的に上物相場600円台となることも予想される。梅雨入りによる末端需要の鈍化とのバランスをとった相場展開となるだろう。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格580円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127